

**第6学年 国語**

**1 結果の分析**

(1) 結果の概要

- ◇全ての領域で都の平均、区の平均を上回っている。
- ◇「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」に関しては、都・区の平均を大きく上回っている。
- ◇「書くこと」に関しては、都・区の平均を上回っているが正答率が低い。

(2) 結果から明らかになった課題

個別の状況（課題）	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的や意図に応じて、詳しく書くことに課題がある。</li> <li>・条件（文字数・段落等）を満たして、まとまった文章を書くことに課題がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>→話題の中心を的確に捉え、伝えたいことを明確に伝える力を育てる必要がある。</li> <li>→句読点や段落、文章構成、といった基本的な内容を身に付けさせ、長い文章を書く力を育てる必要がある。</li> </ul>

**2 改善策**

(1) 具体的な改善策

- ・作文を書く際に、基本的な内容（句読点・段落・構成）について繰り返し指導し、定着するようにしていく。
- ・国語だけでなく、他教科・行事等においても言語活動を意図的に取り入れ、振り返りや自分の考えを書く機会を多く設定することにより、書くことに対する苦手意識を減らすようにしていく。
- ・書いた文章を、友達同士で読み合ったり、教師が添削し教室に掲示したりして、他者に読んでもらえる環境設定をし、書く意欲につながるようにする。

(2) 改善策（手だて）に対する検証

- 児童が書いた作文や長い文章を評価し、文章を書く上での基本的な内容が身に付いているか、目的や意図に応じて書くことができているかを確認し、評価する。児童一人一人に、基本的な内容の修正点や、文章の内容や表現について指導し、確実な定着を図る。
- 単元末に振り返りを書く時間を設け、学習状況を評価するとともに、自分の考えが書けているかを確認する。一人一人フィードバックし、書く力の積み重ねを図っていく。
- 東京ベーシックドリルを使用して、習熟を図り、正答率85%を指標として確認する。

## 第6学年 算数

### 1 結果の分析

#### (1) 結果の概要

- ◇全ての観点で東京都の平均値・全国の平均値を大きく上回っている。
- ◇正答率75%を超える児童が6割ほどいるが、正答率20%未満の児童も数名いる。

#### (2) 結果から明らかになった課題

個別の状況(課題)	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none"><li>・数学的な考え方をはたらかせて解く設問に対して無解答の児童が数名いる。また、記述問題の正答率が32%と、著しく低い。</li></ul>	→計算問題に加えて、記述の仕方について指導する必要がある。図形領域においては、なぜそのようになるのか根拠を説明できるようにしたり、計算領域においては、どうしてその式になったのか説明できるようにしたりしていく。
<ul style="list-style-type: none"><li>・図形やグラフから読み取る設問の正答率60%台が多い。</li></ul>	→グラフにある情報を整理して、今、何について読み取るのか常に考えさせる必要がある。

### 2 改善策

#### (1) 具体的な改善策

- ・文章問題において、聞かれていることと求めたいことを明確にするよう繰り返し指導する。
- ・計算式を立てる際に、図や数直線を使うことにより、式の意味に着目させるようにする。また、言葉の式にも着目させ、意味の理解を深める指導を行う。
- ・どのようにして問題を解いたのか、言葉で説明する機会を増やしていく。

#### 2) 改善策(手だて)に対する検証

- 自力解決をした上で、周りの友達に説明する機会を多くする。ノートを互いに交換し合うだけでなく、きちんと言葉で説明し、矛盾点や疑問に思ったことを児童同士で聞き合える環境づくりに努める。説明する機会を多く設けることによって、数学的に考え、説明する力を育み、そのまま記述できるように指導する。また、児童の記述はきちんと評価し、一人一人にフィードバックすることで確実な定着を図る。
- 東京ベーシックドリルを使用して、習熟を図り、正答率85%を指標として確認する。

## 1 結果の分析

### (1) 結果の概要

- ◇校内全体の正答率としては区の平均・都の平均の両方を基礎・活用共に大きく上回っている。
- ◇正答率が50%を上回っている児童が9割5分以上おり、正答率が80%を上回っている児童も5割近くいる。
- ◇正答率が30%未満、30%台の児童も若干名いる。

### (2) 結果から明らかになった課題

個別の状況(課題)	解決すべき課題
・「世界の中の国土」の世界の主な大陸や海洋の名称と位置についての設問での正答率が全国平均正答率より0.6ポイント下回っている。	→国内外の海洋名、河川名、山脈名、都道府県名等、必ず身に付けるべき知識を繰り返し指導する必要がある。

## 2 改善策

### (1) 具体的な改善策

- ・地名、歴史上の人物名等が出てくるたびにその場所を地図帳で確認させたり、資料集で確認させたりするなどして地名や人物名に慣れさせる。
- ・地名、大陸名、歴史上の人物名、覚えておくべき基礎的な用語などを漢字で確実に書けるように指導を繰り返し行う。
- ・学んだ知識を活用し、自分の考えを記述できるよう、日々の授業の中で自分の考えを書く活動を繰り返し行う。

### (2) 改善策(手だて)に対する検証

- 朝学習等で東京ベーシックドリルの基本的な練習問題を行い、正答率90%を指標として確認する。
- 単元テスト及び学期末テストにおける正答率90%を指標として確認する。指標に達しない児童については、朝や放課後を利用して個別指導を実施する。

## 第6学年 理科

### 1 結果の分析

#### (1) 結果の概要

- ◇校内全体の正答率としては、区の平均は上回っている。
- ◇「観察・実験の技能」に関して、区の平均は上回っているものの、全国の平均を1ポイント下回っている。
- ◇正答率50%を上回る児童が8割以上いるが、30%台、30%未満の児童も数名いる。

#### (2) 結果から明らかになった課題

個別の状況(課題)	解決すべき課題
<ul style="list-style-type: none"><li>・「メダカのオスとメスを区別し、卵を産ませるために必要なメダカを推測する。」という設問での正答率が6.7ポイント下回っている。</li><li>・顕微鏡の使い方について理解する問題が13%の正答率であった。また、カバーガラスについての問題が、8.3%の正答率であった。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>→生き物への興味は見られ、どのようにして卵が生まれるのか理解はしているが、オスとメスを区別することについては理解が不十分である。</li><li>→実験道具の使い方を確認しているが、さらに定着を図る必要がある。</li></ul>

### 2 改善策

#### (2) 具体的な改善策

- ・メダカのオスとメスの特徴を双眼実態顕微鏡で観察し、自ら違いをまとめる指導を行う。
- ・覚えるだけでなく、なぜオスの尾びれに切れ目があるのか考えさせる。
- ・数に限りがあるが、顕微鏡の使い方について一人一人がきちんと取り組み、ものの名前や使い方について小テストを行うことで着実に理解させる。
- ・実験道具を活用する機会を増やす。
- ・日頃の生活の中で起きていることや身近にあることを踏まえながら予想をたてさせる。

#### (2) 改善策(手だて)に対する検証

- 単元毎のワークシートでは、知識・理解の平均正答率を80%とする。
- 復習において、東京ベーシックドリルの正答率を85%とする。
- 上記の指標に達しない児童へは、放課後などを利用して、個別の指導を行う。
- 実験において、一人一人技能テストを行い、8割以上の児童が正しく実験器具を使えるようにする。